

発電所だより

3月号

平成26年3月発行 東北電力株式会社女川原子力発電所総務部広報グループ 女川町塚浜字前田1 電話0225-53-3111 原子力の情報をホームページで公開しています。 <http://www.tohoku-epco.co.jp/>

《私たち こんな仕事をしています》

女川原子力発電所では、現在、定期検査や更なる安全対策工事などを行っており、協力企業の皆さんも含めると約2000人（このうち東北電力社員は約500人）が働いています。「発電所だより」では、発電所で働く所員を通して女川原子力発電所の「今」を紹介しています（随時掲載）。

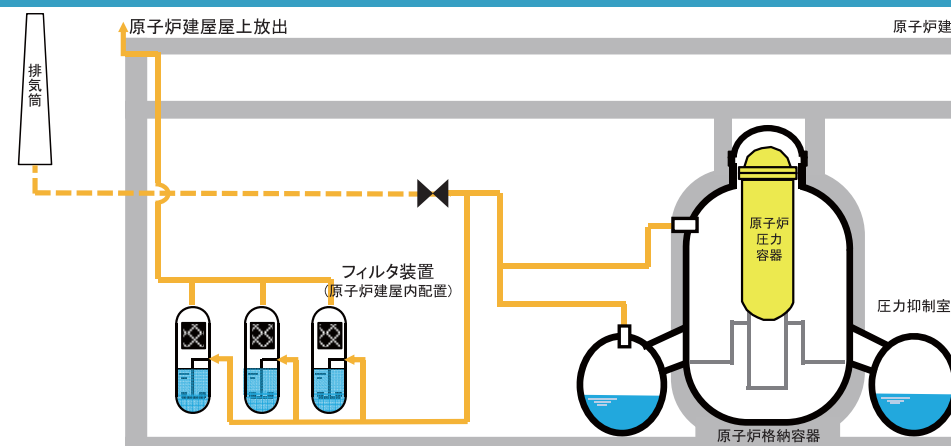
今回は、原子炉の冷却、放射性物質の閉込め機能などの安全対策を担当している保全部 原子炉グループの登場です。



保全部 原子炉グループ

原子炉压力容器、非常用炉心冷却系など多くの安全上重要な設備の維持管理を担当。27人のグループ員が責任と誇りをもって日々奮闘しています。

フィルター付格納容器ベント設備の概要 - 2号機の例 -



原子炉格納容器の過圧による破損を防止するために既設の配管（点線）とは別に設置する設備。万一の際、格納容器内の蒸気等をフィルタ装置（水と金属フィルター）を介して大気へ放出する（実線）ことで放射性物質の放出量を1/1000以下に抑制。

震災時には先手を打った対応が自然に出来たと聞きました。

震災直後は家族との連絡もとれず不安な気持ちの中ではありましたが、一人ひとりが自ら考え行動していました。「絶対に発電所を守るんだ!」と必死だったのだと思います。

例えば、発電所の敷地は高いのですが、浸水から設備を守るための土のうをみんなで手分けして作り、運びました。この土のうは、上司からの指示がある前に担当者同士で相談し、必要数以上を用意していました。

震災後はどのような安全対策を担当しているのですか。

これまでに安全対策として導入している送水車（代替海水ポンプ）やタンクローリーの維持管理、そして、日々の訓練を行っています。

また、万一の際、放射性物質の放出量を大幅に抑制できるフィルター付格納容器ベント設備の工事などを担当しています。



昼夜問わず行われる訓練

職場の雰囲気はどうか。

ベテラン・中堅社員から若手社員への技術継承に力を入れています。技術とともに相手を思いやる気持ちも伝わるのか、職場のチームワークはとても良いです。

また、若手の多い職場ということもあり、昨年から今年にかけて3人が結婚。幸せいっぱいの新婚さんたちが職場を明るく盛り上げています。



《女川町議会で発電所の近況についてご説明しました》

2月18日に開催された女川町議会原発対策特別委員会に、当発電所からも関係者が出席しました。

当日は、現在、原子力規制委員会に申請中の「2号機新規規制基準への適合性審査申請の内容」ならびに「1号機高経年化技術評価および長期保守管理方針」についてご説明しました。

委員の方々からは、基準地震動を1000ガルに設定した根拠や耐震工事の進め方、各種安全対策に関する質問がありました。また、地域の皆さまにも分かりやすく説明するようにといったご意見もいただきました。

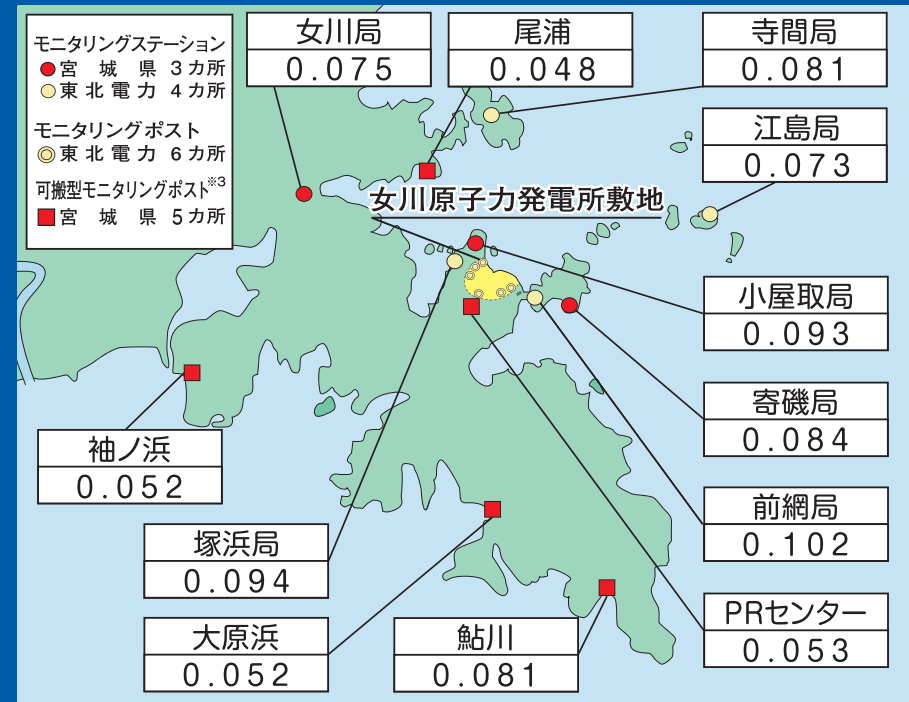


《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.070マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

モニタリングステーションの測定状況(2/28現在)



単位：マイクロシーベルト/時

女川原子力PRセンターからのお知らせ

《図画コンクールの作品展を開催しました》

2月8日から16日まで、イオンスーパーセンター石巻東店において、第12回東北電力図画コンクール「想像の海の生きものたち」の作品展を開催しました。

応募総数約5000点の中から一次審査を通過した200点の作品を展示し、来場された多くの皆さまに、子どもたちが一生懸命描いた想像力あふれる“海の生きものたち”をお楽しみいただきました。



第12回最優秀賞「海底清そう魚」

「東北電力図画コンクール」は、小学生以下の子どもたちを対象に、1枚の絵に表現することを通して、“想像力”と“考える力”を育てるとともに、自然・環境・エネルギー等に対する関心を深めてもらうことを目的に、平成14年より毎年開催しています。

モニタリングポストの最小値と最大値

平成23年3月11日	0.027~0.064
平成23年3月13日	1.8~21※4
平成24年4月1日	0.063~0.098
平成25年4月1日	0.055~0.076
平成25年12月1日	0.049~0.068
平成26年1月1日	0.048~0.082
平成26年2月1日	0.048~0.068
平成26年2月28日	0.047~0.070

単位：マイクロシーベルト/時

- ※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日（平成23年3月13日）の値、1年後、2年後、至近3カ月の値を掲載しています。
- ※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
- ※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。
- ※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。